



少女よ、大志を抱け

IT・STEM女子が
世界をおもしろくする!

Girls, be ambitious.



特集 スペシャルインタビュー

Forbes JAPAN「世界を変える30歳未満30人」に選出

田中 沙弥果さん

一般社団法人 Waffle Co-Founder/CEO

1991年生まれ、大阪府出身。2017年NPO法人みんなのコードに就職し、小学校のプログラミング教育必修化に向けた事業に携わる。2019年IT分野のジェンダーギャップを解消するために一般社団法人Waffleを設立。

一般社団法人Waffle

女子中高生向けのIT・STEM教育の機会を提供している団体。具体的にはWaffle Camp(ウェブサイト開発スキルなどを学ぶオンラインクラス)の実施、10代女性の国際アプリコンテスト「Technovation Girls」に参加する日本チームのサポート、政策提言など、性差ではなく能力や人として女性が尊重される社会を目指し活動している。

生理の貧困 社会的問題として考える

経済的な理由などで、生理用品を十分に入手できない「生理の貧困」。生活困窮だけではなく、育児放棄といった家庭環境、生理用品の使い回しや未使用による健康面での問題も含まれています。

「生理の貧困」とジェンダー平等

海外では「生理の貧困」の問題を契機に、男性視点で社会の仕組みが作られているのではという疑問が投げかけられています。

報道番組によると2016年、アメリカでは、当時のオバマ大統領とYouTuberの対談をきっかけに、生理用品は生活必需品とみなされず、課税されていることが大きな話題となりました。ある州では、野球チケットやゴルフ会員権などが非課税となっており、こうした不平等に対し、全米各州で次々と「タンポン税」が廃止されるムーブメントが起こったのです。

生理用品が課税対象となっていた背景には、政治が男性中心で行われ、女性の身体にとって重要なテーマである生理が、政策対象として認識されてこなかったことがあると取り上げられました。アメリカに留まらず、世界各国では「生理の貧困」を社会全体の問題として捉え、解消に向けて取り組む動きが広がっています。



日本は? 国の方針に「生理の貧困」を明記

今年6月に発表された「経済財政運営と改革の基本方針(骨太の方針)」。国の重要課題や政策の方向性を示す方針に、「生理の貧困」への対策が初めて明記されました。

具体的な内容を示した「女性活躍・男女共同参画の重点方針2021」では、「生理の貧困」を「健康や尊厳に関わる重要な課題」だと明記し、健康調査等を行うこととしています。

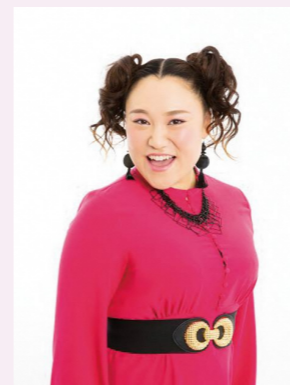
青森市男女共同参画プラザ「カダール」等でお困りの方に生理用品を無料配布

青森市男女共同参画プラザ「カダール」、青森市働く女性の家「アコール」では、コロナ禍による困窮などで生理用品を購入できない女性を対象に生理用ナプキンを無料配布しています。生活や仕事、家庭など様々な不安や困難を抱える女性を対象とした各種相談窓口もご案内しています。

詳しくは青森市男女共同参画プラザ「カダール」へ ☎017-776-8800

指定管理者:
NPO法人 あおもり男女共同参画をすすめる会 自主事業
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、9月1日(水)から9月30日(木)まで臨時休館となります。

2021.10.17 開催 青森市男女共同参画推進月間 記念イベント



バービー (フォーリンラブ)

平成8年10月22日全国で8番目に「男女共同参画都市」を宣言した青森市。平成30年4月施行の「青森市男女共同参画推進条例」において、毎年10月を青森市男女共同参画推進月間と定め、様々な事業を展開しています。今年度も男女共同参画プラザ「カダール」で男女共同参画を推進する個人・団体、事業者の表彰式を開催。記念イベントではバービーさん(フォーリンラブ)をゲストにお迎えし「わたしが描くワタシらしい未来」と題してトークショーを行います。

しっかり感染対策をしてお待ちしておりますので、ぜひお越しください。

定員150人(申込順)。
受付開始は
9月16日(木)9時から。
※イベントは中止・延期・変更となる場合があります。
詳細は
男女共同参画プラザ「カダール」
☎017-776-8800まで。

<発行>
青森市 市民部 人権男女共同参画課
〒030-8555 青森市新町1-3-7
☎017(734)2296 FAX017(734)5765
<編集スタッフ>
田中真紀 (男女共同参画プラザ「カダール」)
齋藤純子 (ライター)
※転載ご希望の場合はご連絡ください。

アンジュール VIEW 「性同一性障害」から 「性別不合」へ

「性同一性障害」は人気ドラマの中で取り上げられたことも影響し、今では世間一般に知られる言葉となりました。その歴史を振り返ると、日本では平成9年に日本精神神経学会が「性同一性障害の診断とガイドライン」を公表し、性同一性障害が医療の対象となりました。

平成15年には「性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律」が成立し、性同一性障害者は性別適合手術を含む一定条件のもとで戸籍の性別変更ができるようになりました。2020年末において、戸籍上の性別を変更した人は1万人を超えています。

性同一性障害はWHOの国際疾病分類においても1960年代から名称と概念の変遷を繰り返しながら精神疾患とされてきましたが、2022年にはWHOの国際疾病分類における名称が「性別不合」に変更され、精神疾患の分類から除外されることになりました。日本においてもこの分類に準じて対応していくことになります。

田中沙弥果さん

一般社団法人 Waffle Co-Founder/CEO



Girls, be ambitious.

日本の女子学生は理数系学力が高い、でも理工学部の女性比率は最下位

日本の工学部の女子学生比率は15%程度であり、ICT^(※2)関連に興味のある15歳の女性は3.4%。両方ともOECD^(※3)加盟国の中で日本はワースト1位です。また、IT業界の女性割合も20%と低く、これは世界的にも同じ状況にあります。日本の女子学生は他国よりも理数系の学力が高いのにも関わらず、大学進学時点で工学部、理学部を選択する割合が低く、既に職業選択前に理系分野において格差が生じています。

親や身近なロールモデルの存在が女子学生の進路に影響

プログラミングのイベントを実施してわかったのですが、そういった分野が自分とは関係ないものと考えた女子学生が多いです。そうなるという要因として親や教員の影響がとても大きいです。実際、データサイエンティスト^(※4)になりたいのに、親からは反対されたという学生がいました。親を説得するために、データサイエンティストの働き甲斐などについてたくさん質問していたことを覚えています。また、親や教員の言葉に影響を受けて、進路を変える人もいます。

女性教員は女子学生にとって身近なロールモデルでもあるのですが、教員向けのプログラミング研修の参加者は8割が男性教員でした。小学校教員の6割が女性教員であるにも関わらず、です。

親や教員といった身近なロールモデルの存在が進路にも影響しており、女子学生がIT、STEM分野から遠のいていく一因となっています。

そこでWaffleは、NPO法人みんなのコードと共同で、小学校の女性教員向けに特化したプログラミング教育の教員養成プ

ログラム「STEP」を開発・提供しています。また、内閣府「若者円卓会議」においてSTEM・IT分野におけるジェンダーギャップの抜本的な改革の必要性について政策提言し、「経済財政運営と改革の基本方針2021」に提言の内容が盛り込まれました。

高収入。ライフイベントに合わせた働き方ができるIT分野

IT分野の職業に就くメリットは2つあると思っています。一つ目は高収入であること。今、IT人材は日本で80万人足りないと言われており、エンジニアの取合いになっています。

二つ目は子育てや介護といったライフイベントがあっても、自宅で時間に縛られない働き方ができることです。日本はメンバースhip型雇用といって終身雇用、年功序列でキャリアアップしていくのが特徴です。それだとライフイベントで仕事から離れることがブランクになりますが、スキルがあれば転職もしやすいという利点もあります。

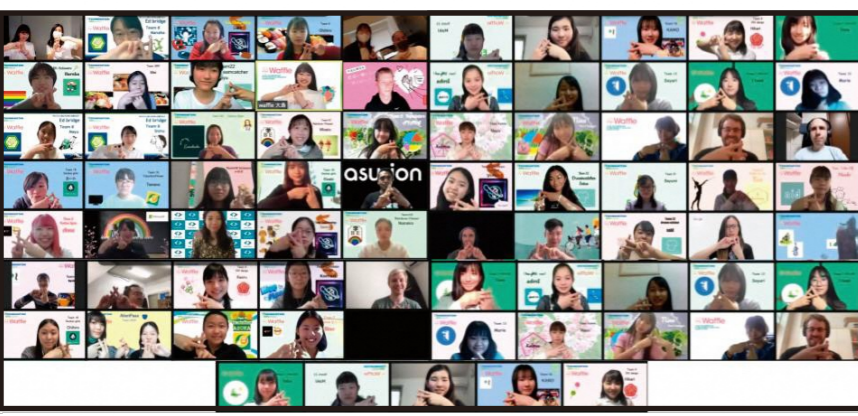
- ※1 ジェンダーギャップ 「ジェンダー」とは社会的・文化的に形成された性差のことであり、「ジェンダーギャップ」とは男女の違いにより生じる格差のこと。
- ※2 ICT 「Information and Communication Technology (情報通信技術)」の略。ITは情報に関する技術そのものを意味し、ICTは情報技術を使ったコミュニケーション(使い方)を表す。
- ※3 OECD 経済協力開発機構。ヨーロッパ諸国を中心に日・米を含め38ヶ国の先進国が加盟する国際機関。
- ※4 データサイエンティスト 大量に蓄積されたデータ(ビッグデータ)を収集・分析し、そこから有用な知見を引き出した上で、企業の経営戦略等の意思決定に活かすことのできる人材のこと。

Keywords

新型コロナウイルス感染症で打撃を受けた女性。女性も経済的に自立する。そのためにはスキルを身につける

新型コロナウイルスで非正規雇用の女性はかなり大きな打撃を受けたと思います。おそらく今後の社会において、新型コロナウイルス感染症拡大のような社会の在り方が変わる出来事は何度か起こるのではないかと考えます。それに備えて、女性は男性の収入でやっていくという価値観ではなく、女性も経済的に自立をする、そのためにはスキルを身につける必要があると思います。

大人からプログラミングをやるとなると大変なので、ITやSTEM分野について、中高生の頃から難しいという概念をなくし、



米国のSTEM教育系NPOが開催する10代の女の子を対象としたコンテスト「Technovation Girls」への参加を後押し。オンラインで繋がった仲間たちとの記念写真

楽しいという概念を残すということがとても重要だ。

Waffleの活動は文理選択の時期にある女子中高生をターゲットにしています。この時期にITやキャリアについて知っているか知らないかが、進路選択の幅に大きく影響するからです。そのため、Waffle Campではホームページ作成を通して自分のアイデアが実現できるという体験をしてもらい、女性エンジニアによるキャリア講演によって、女性エンジニアの働き方や仕事の内容をわかりやすく伝えるというアプローチをしています。

自分の好きなものとテクノロジーを掛け合わせてみて。IT分野の仕事は新しい時代の「手に職」

地方にいと選べる情報の格差というのはすごくあると思います。

今後の社会というのはITがいろいろな分野に入ってきます。例えばビューティテック(美容×テクノロジー)、フェムテック(女性の健康×テクノロジー)、アグリテック(農業×テクノロジー)などです。



Waffle camp 開催、「Technovation Girls」日本支部の運営、政策提言などの活動が評価され、第4回「ジャパン SDGs アワード」で「特別賞 (SDGs パートナシップ賞)」を受賞

青森市の理系女子イベント **実験ガールズ2021**
～大学生のセンセイと理科実験を楽しもう！～

2021年8月1日(日)、弘前大学教育学部の女子大学生4人が「先生」になり、「実験ガールズ2021」が開催されました。

小学1年生から6年生までの女子22名が「トンボ玉をつくろう」「針金モーターをつくろう」の2つの実験にはじめてチャレンジ！おねえさん先生の丁寧で優しい指導を受け、十分に楽しんでもらえたようです。

自分で作った世界でひとつだけのトンボ玉に紐を通してプレスレットにすると、子どもたちに笑顔が広がりました。

女の子たちの多様な進路選択につながることを願い、これからも応援していきます。

青森市から世界を変える未来のリケジョがたくさん羽ばたきますように！



針金モーター作りに夢中の参加者



田中さん(左)とWaffle共同創業者の斎藤明日美さん(右)

分野は場所を選びません。高収入で働きやすいこと、これから成長する分野であること、考えれば、新しい時代の「手に職」だと言えます。プログラミングイベントの情報収集をしてイベントに行ってみるなど、子どもたちに機会を与えてあげて欲しいと思います。

違和感をないがしろにしない

「女性は理系科目が不得意だから理学部には行けない」と言われて進路を変える人もいるという話をしましたが、身の回りにもいるもの、起こることに違和感を覚えずとも仕方がないかな、と折り合いをつけながら生活している方もいらっしゃるかもしれません。でも、ジェンダーについて知ると、違和感を覚えたそれはノーと突き付けていいもの、反抗してもいいものと気付けると思うのです。

違和感に折り合いをつけない、きちんと違和感として持つておくことがすごく重要だと思っています。違和感をないがしろにしないでください。